

学会参加報告

沖縄県西原町の琉球大学農学部で11月3-6日に開催された第81回日本陸水学会大会に塘研究室の武田悠太君（博士前期課程2年）、難波元生君（博士前期課程2年）、塘の3名が参加しました。武田君は『酸性河川酸川におけるユビオナシカワゲラの生活史』のタイトルで口頭発表を、難波君は『福島県裏磐梯地域に生息する外来底生動物（ウチダザリガニとフロリダミズヨコエビ）』のタイトルでポスター発表を行いました。以下に簡単に報告します。

学会は3日からでしたが、課題講演、口頭発表、ポスター発表は5日と6日の2日間でした。5日は課題講演『地球温暖化が高地湿原生態系“尾瀬ヶ原”に及ぼす影響の陸水学的課題』があり、難波君のポスター発表もこの日でした。難波君のポスターは何人も参加者が発表を聴いて下さり、議論をして下さいました。発表時間終了後には同じ時間帯に発表していたポスター発表者が説明を聞きに来てくれました。6日の課題講演は2つあり、塘は今回の学会参加の目的の一つでもある『環境DNAを用いた陸水生態系における生物モニタリング』を聴きました。環境DNA解析とは水や堆積物に含まれるDNAを解析し、そこにターゲットとなる生物種がいるのか否かを明らかにする方法です。この分野の技術の進歩は目覚ましく、わくわくする話をたくさん聞くことができました。武田君の口頭発表もこの日でした。聴衆はそれほど多くありませんでしたが、4つほど質問と指摘を頂きました。二人とも初めての学会発表でしたが、しっかりとした発表と議論・応答をしてくれました。

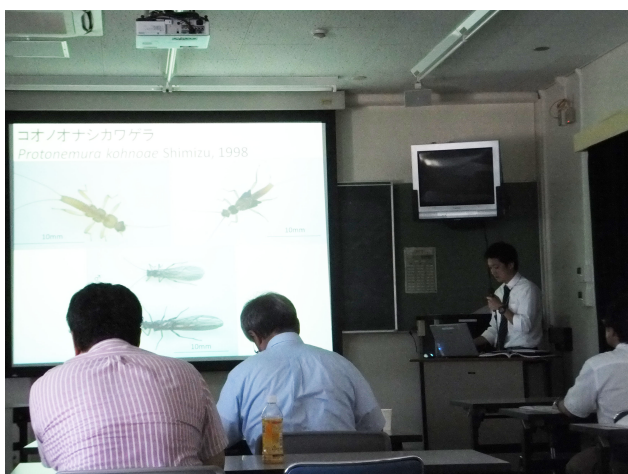
沖縄は信じられないほど暑く、会場は冷房が常に入っていました。昼食時に会場のある建物の外に出た時は木陰にいないと耐えられないほどでした。ルリウラナミシジミ、ナミエシロチョウ、リュウキュウムラサキなど沖縄に行かなければ見られない蝶も活動していました。夜は沖縄料理と泡盛を堪能し、居酒屋で偶然隣席になった東海地区の学会員の方との交流をはかることもできました。



日本陸水学会第81回大会会場入口



難波元生君のポスター発表の様子



武田悠太君の口頭発表の様子



学会大会会場となった琉球大学農学部の前庭